

令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【京都府立丹波支援学校】

1 実践テーマ	【 III V 】
2 実施対象者	丹波支援学校中学部・高等部生徒 約60名 京都先端科学大学健康スポーツ学科学生 約60名 □丹地域高等学校生徒 約70名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（体育・総合的な学習の時間） ② 行事名（□丹地域の高校生の交流会） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（京都府立特別支援学校ボッチャ交流会） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	(1) 障害者への理解を深め、共生社会の形成に資する。 (2) スポーツを通して自己肯定感を高めるとともに、他者を尊重する態度を養う。 (3) □丹地域の高校生、大学生との交流を深める。
5 取組内容	(1) 京都先端科学大学健康スポーツ学科学生との交流 ア 6月11日(火) ・フットベースボールでのスポーツ交流 イ 10月30日(水) ・障害についての理解学習 ・ボッチャ交流 ・キンボール交流 (2) □丹地域の高校生の交流会(11月16日(土)) ・卓球バレー、ソフトボール、バトミントン等での交流 (3) 京都府立特別支援学校ボッチャ交流会(6月29日(土)) ・4チームが参加。うち1チームが優勝



先端科学大学との交流会



ボッチャ交流会

6 主な成果	<ul style="list-style-type: none">・大学生とのスポーツ交流を通して、他者を認める気持ちが育ったり自己肯定感が高まったりした。・障害者スポーツ(パラリンピック種目)を体験することにより、広く周知することができた。・大学生にとって本校生徒と関わったり、講義を聴いたりすることで障害理解教育につながった。・ボッチャ交流会に参加することで、他の支援学校生徒と交流することができた。・地域の高校生との交流を通して、障害者スポーツを知ってもらうとともに、本校の理解啓発につながった。
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none">・支援学校教員がルール説明するのではなく、大学に事前に指導案を送付し、大学生がルール説明することで、より身近な存在として意識できるようにした。・大学生の特技を見せてもらうことで、憧れの気持ちを抱けるようにした。・ホームページに掲載したり、新聞社に知らせたりする等、学校外にアピールした。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none">・重度重複障害生徒も参加できる取組を検討する必要がある。・実施後のまとめができなかった。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none">・来年度、さらに充実・発展するよう取組を継続する。・すべての取組において、大学生が本校へ来校しているの、本校から大学へ行くことも検討する。